

大人の発達障害について

発達障害は、生まれながらに脳機能のかたよりをもち、それによる独特の行動特性から行動や思考にかたよりが生じます。

能力のバランスがかたよっているだけでこころや身体に異常があるわけではありません。また、その特性は必ずしも劣っているとは限らないですし、必ず問題になるとは限りません。そのかたよりが幼少期から目立つ人もいれば、大人になってから社会で不適応を起こし、初めて気付かれる人もいます。正しい理解と支援を得られれば、行動や思考が多少偏っていても問題なく暮らせます。つまり、発達障害は本来、特性であって障害ではないのです。障害となるのは理解や支援が不足して生活上に問題が生じてきた場合です。

発達障害にはいくつかの種類があります。ただし、種類ごとにはっきり分かれているというわけではなく、下記のように他の発達障害の特性もあわせもっていることも多いです。特性のあらわれ方は人それぞれで、ある特性を濃く持っている場合やいろいろな特性を薄く持っている場合もあります。そのため抱えている困難も人それぞれです。

自閉症スペクトラム

他の人と協調して行動するのが苦手で、やりとりがかみ合いにくい、頑固で融通が効きにくいといった苦手さを持っています。最近まで広汎性発達障害という名称で知られており、自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群などに分かれていましたが、自閉症スペクトラム（連続体）と総称される事が多くなってきています。

ADHD（注意欠陥多動性障害）

年齢不相応に落ち着きがなく、極端に活動的であったり、喋り出したら止まらなかつたりします。思いつきの言動が多く、失言になったり、あれこれと多方面に行動してしまいます。また注意力が持続しにくく、散漫になりやすいため、ミスや忘れ物が目立ちやすいです。

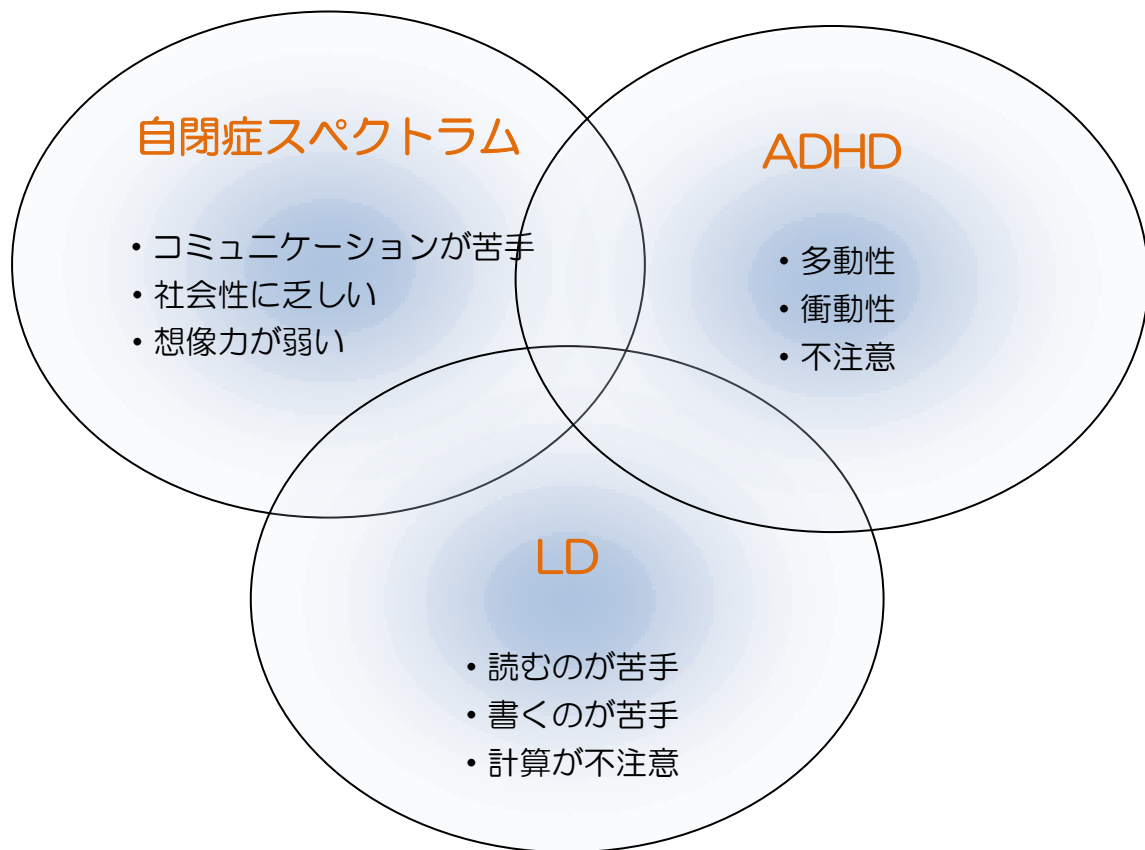
LD（学習障害）

特定の教科や課題を極端に苦手とします。読字障害では読むのが極端に遅かったり、一行飛ばし読みになったり、読めたとしても内容が理解できなかったりします。書字障害ではひらがなや漢字を書き間違える事が頻繁だったり、文章を書くことが極端に苦手だったりします。算数障害はその他の学習面と比較

して極端に計算が不得意だったりします。学習障害もどれか一つの場合も複数重なる場合もあります。

それ以外にも運動が苦手だったり、手先が不器用だったり、感覚が過敏で、接触に敏感な人や大きな音やざわざわした感じを苦手とする人、暑さ・寒さを感じにくい人など感覚にも独特のかたよりがあることも発達障害の特徴です。

特性を知ることがまずは何より大切です。特性を理解した上で、本人の言動を観察すると、その理由を理解することができます。言動の理由が理解できると適切な支援が実現しやすく、本人にとっても周りの人にとっても生活上の問題が軽減できるようになります。



希望ヶ丘ホスピタル

高山 恵子

お問い合わせ：津山市健康増進課

TEL 0868-32-2069